

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-131	16-053	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Alcohol consumption, smoking, and drug use in pregnancy: Prevalence and risk factors in Southern Thailand. タイ南部における妊婦の飲酒、喫煙、違法薬物使用の状況と危険因子		
執筆者		
Assanangkornchai S, Saingam D, Apakupakul N, Edwards JG.		
掲載誌		
Asia Pac Psychiatry. 2016 Aug 5. doi: 10.1111/appy.12247.		
キーワード		PMID
妊婦、飲酒、喫煙、物質使用障害		27491493
要 旨		
目的： 妊婦における飲酒、喫煙、違法薬物使用の実態と健康状態や社会的危険因子との関連を検証する。		
方法： 2013年9月から2014年6月にかけて、タイ南部の産院7施設において、初回受診の妊婦3578名を対象に、人口動態、社会的支援、既往歴、罹病状態、飲酒、喫煙、違法薬物の使用状況について聞き取りを行った。精神健康問題については12項目の質問からなるGHQを用いて評価した。薬物等の使用に関しては、酒、たばこ、大麻、鎮静剤など7物質群について評価前3か月間の使用状況を質問する短縮版ASSISTによるスクリーニングと尿検査を用いた。尿中薬物検査は短縮版ASSISTの結果が陰性であった5~10人から無作為に選んだ1人を行った。調査データは地域の出生数と病院規模によって重み付けを行った。飲酒、喫煙、違法薬物使用と患者背景因子との関連はロジスティック回帰モデルを用いて解析した。		
結果： 対象者の平均年齢は25.9(SD:6.7、範囲:13-47)歳であった。自己申告およびGHQに基づいた、飲酒、喫煙、違法薬物に関する重み付け使用割合は5.6%(95%信頼区間=4.9-6.4)および精神健康問題の存在割合は29.2%(95%信頼区間=27.5-30.9)であった。短縮版ASSISTおよび尿中検査に基づいた、評価前3ヶ月間の物質使用障害の割合は、それぞれ1.2%(95%信頼区間=0.8-1.5)および7.7%(95%信頼区間=4.6-10.7)であった。薬物使用の関連因子は、宗教、未婚、予定外妊娠、人工中絶歴、精神疾患の罹患であった。		
結論： 本研究結果から、妊婦に対する質問票や生化学検査を用いた初期の介入により、飲酒、喫煙、違法薬物使用や精神疾患を特定することの必要性が示唆された。		